

学術情報リテラシー教育の理論と動向 (骨子)

野末 俊比古

1. はじめに

- 実践に向けて
- 研修にあたって
- 「(学術) 情報リテラシー (教育)」 観を

2. 学術情報リテラシー教育をどうとらえるか

- 情報リテラシーとは?
 - 情報を主体的に使いこなす能力
 - 問題解決能力の中核
 - 「図書館リテラシー」も (重要な) 要素
 - スキル (技能) に留まらない
 - 実態 (中身) はコミュニティに依存
- コミュニティと情報リテラシー (イメージ)
- 学術情報リテラシーと図書館

3. 学術情報リテラシー教育（指導サービス）をどう進めるか

■ 『ガイドライン』における実施の手順

■ 理念（Why の視点）

■ 目標・内容（What）／方法（How）／体系化（When, Where, Who）

- 体系表 → シナリオ → 教材
- 入学（前）から卒業（後）まで
- 図書館以外も含めて（授業等との連携）
- 「印象づけ」も
- らせん型で
- 多様な方法・手法を利用
- スキルに留まらず
- 利用者からみた記述で

4. 利用者（ニーズ）をどうつかむか

■ 利用者（ニーズ）の把握（Whom の視点）

- demands と needs
- データに基づいて
- セグメント化

■ 情報利用の実態

- 「平成生まれ」
- 量的・質的な把握
- ブラウジング・チェイニングなど

5. 政策・実践・研究の動向を踏まえる

■ (学術) 情報リテラシー教育をめぐる政策

- I T 基本法 (2001)
- 学術審議会建議 (1996)
- 科学技術・学術審議会報告 (2006)
- 中央教育審議会答申 (2008)
- 科学技術・学術審議会まとめ (2010)

■ (学術) 情報リテラシー教育をめぐる実践

- 出張講座 (出前講座) / オンデマンド講座 / メニュー方式講習会など
- TA / 図書館サポーターなど
- 教材・ツール開発 (パスファインダなど)
- ラーニングコモンズ

6. おわりに

- 「学習支援」「教育支援」の意味
- (大学) 図書館のアイデンティティと図書館員の専門性

付録 学修支援と学術情報リテラシー教育

- 「教育（学修）支援」は大学図書館の本来的役割
- 学習支援（自主性）から学修支援（主体性）へ
- 手段としての（学術）情報リテラシー
- 教育・学修資源センターとしての図書館
- “先生”としての図書館員
- 今後における情報リテラシー（教育）の方向性

